

コロンブス 講評の時間



地域活性化プロデューサー
(株)CCJ常務取締役
今泉道雄
(いまいづみ・みちお)

1980年3月東北大学経済学部卒業。日本政策投資銀行青森事務所長、地域総合整備財団開発部長・振興部長等を経て、09年6月(株)CCJ常務取締役。全国各地で地域の振興・開発に携わる

月の
地域本
今地

「企業再生」の要諦だ!!

ケースブック 事業再生

「失われた10年」という言葉がある。しかし

から抜け出せない状況が20年近くつづいている。バブル崩壊に端を発した経済の低迷は、その後もリーマンショック、ユーロ危機と超円高、さらには東日本大震災など自然災害の影響も加わり、つぎに飛躍する機会を失っているかのように見える。

本書では、こうした外部環境の変化に対応できずに経営危機に陥っている企業が、再起をはかるための「視点」は何かと問うている。題名が示す通り、法的視点からの企業再生や企業延命策ではなく、事業自体の再構築・再編成などによる「事業再生」という視点から説き起こしている。

本書では、事業再生の類型を①事業の選択

「価値」を最大化させる観点こそが「再生の要諦」であると力説する。グローバル化の進展を背景とする経済環境の悪化は、大企業のみならず、地場の中堅・中小企業にも深刻な影響を与えている。こうした状況下では、余程の市場占有率を有するか、事業改革を行う力を有する企業以外、自社の力のみで再生することは難しくなっている。企業の社会的責任が、雇用継続を含む「事業継続」にあるとすれば、他社との協業化や経営統合などによる生き残りの道を模索していくかざるを得ない企業も多いかと思われる。多額の借財や後継者不在などの問題を抱えながら、その解決に向け頭を悩ませている地場企業経営者に、是非とも手に取つていただきたい一冊だ。



編著: 許斐義信
著者: ターンアラウンド研究会
発行: 中央経済社
定価: 2800円+税

コロンブスブックレビュー

東日本大震災

災害に強い社会をつくるために 科学者の役割・大学の使命

東日本大震災直後のボランティア派遣や復興支援をバックアップする早稲田大学出版部が発刊する「震災後に考える」シリーズの22冊目。第1部では、原子力工学・防災工学という自然科学系分野と災害社会学・経済政策学という社会科学系分

東日本大震災から大学に課せられた課題



編者: 鎌田薰
発行: 早稲田大学出版部
定価: 940円+税

野の4人の教授が、それぞれの立場から震災によつてもたらされた「反省」と与えられた課題について論述している。そして第2部ではその課題をクリアするための問題提起、そして鎌田薰総長と4人の教授のディスカッションが掲載されている。

本書でとくに注目したいのは「高齢者社会における災害」「過疎地での災害」といった部分だ。災害で窮地に立たされる高齢者と過疎地の現実がわかり、それに対応するための人材育成や仕組みづくりの重要性を再認識できる内容になっている。

4つの実践力で生きる「人事管理力」

ビジネス

上司の「人事労務管理力」

著者は愛知県名古屋市で「個人と組織の成長をはかり社会に貢献する」ことを経営理念に掲げ、コンサルタント業務を開拓している近藤圭伸氏。

中堅・中小企業に特化した人事賃金制度の構築・運用支援などで、多くの企業を支援しているという。本書では上司が部下を管理するには、人事労務管理の知識に加え、4つの実践力が必須だと強調。その4つとは、部下の様子を具体的にメモしておくといった「観察」、共感しながら部下の話を聞き、その真意を捉える「傾聴」、部下の能力、行動事実

などをそのまま伝える「承認」、部下と向き合って新しい視点や解決策を導いていく「対話」。とくに社内コミュニケーション業務を展開している昨今は「対話」が重要で、これをシッカリとしていけば「観察」「傾聴」「承認」も押さええることができるという。不況期こそ、「こういった人材の生かし方を学んでおきたいものだ。



著者: 近藤圭伸
発行: 中央経済社
定価: 1600円+税